

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0270102098
法人名	社会福祉法人忠悠福社会
事業所名	グループホームせんじゅ園
所在地 (電話番号)	〒038-0011 青森県青森市篠田二丁目11番8号 (電話) 017-783-2887

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月13日	評価確定日	平成22年1月13日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 14日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 ~ 10,500 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1		要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	4 名
要介護5		要支援2	名
年齢 平均	85.4 歳	最低	70 歳
		最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	青森厚生病院、青森協立病院、青森クリニック、たしる歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>ホームは市街地中心部に立地しており、玄関の目の前が主要国道で、交通量も非常に多くなっている。しかし、日中玄関の施錠は行っておらず、危険性も感じられないほど職員の入居者に対する目配りが出来ている。立地条件から、買い物や通院、観光などの外出には非常に便利なところである。また、法人代表は医師であり、ホームのすぐ近くに入院病床を持った医療機関を構え、近くにはデイサービスや訪問介護等の居宅サービス事業も展開している。ホーム入居者の病状の管理にあたっては、ホームの職員との連携を密にし、いかなる場合もすぐに駆けつけることが出来る体制が確保され、入居者や家族、職員の安心を支えている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善項目としてあげられた、同業者との交流については、研修会や見学等に於いて交流が図られている。また、介護計画に関しては、短期目標に対する評価が細かく評価され、職員会議等で話し合いがされている。夜間を想定した避難訓練は年2回の避難訓練の内、1回は夜間想定訓練として行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価を行い、それを持ち寄り職員会議でまとめられている。自己評価が初めての職員に対してはテキストを配布し、項目ごとに狙いを説明し理解してもらった上で実施している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、ホームの自己点検や外部評価・自己評価・ホームの日々の活動状況等を報告し、委員から意見を頂きサービスの向上に努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族には、月1回はホームに来て頂けるよう、月々の支払い方法をホームでの現金支払いと定め、訪問時にホームでの生活状況の確認と報告を行っている。その他に、毎月、生活状況と外出行事等の記録を家族へ送っている。家族からの苦情や意見については、来訪時に話しかけ聞くように対応しているが、現在に至るまで一つもない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内で行われる行事やホーム裏にある公園の清掃にも積極的に参加している。ホーム入居者は町内からの入居者も多く、現在も友人が町内に住んでいるため町内会の行事に参加することで、ホーム入居前の友人との交流も十分に図られている。また、実習の受け入れや、認知症研修への参加も行われている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスについて職員会議において全職員で話し合い、地域生活の継続支援や関係性を盛り込み、利用者個々が自分らしい生活を送ることが出来るよう、毎年見直し確認を行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の見やすい場所に大きく掲示している。管理者・職員は理念を共有し、実践していくためにはどのようにしたらよいか常に考え、毎年4月に修正が必要でないか相談し合っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地区自治会に加入し、日常的に隣近住民の方とあいさつを交わしたり、町内会の花壇の管理や回覧板等を通し、地域との交流を積極的に図っている。		地域性から、近所は空き家が目立ち、独居老人や高齢者世帯が多い。グループホームの役割等について理解が深まるような工夫・取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の作成に当たり、全職員で一通りの評価を行い、職員会議で全職員でまとめ作業を行っている。初めての職員には評価の意義と狙いを説明した後に実施され、職員は自己評価を行うことでホームに不足している部分を理解し向上しようと努力されている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域包括支援センター・民生委員・入居者家族・地区会長・入居者代表・職員で構成されている。2ヶ月に1回自己点検や外部評価に伴う自己評価結果、日々の活動状況等について報告・相談する機会となっている。市担当者の出席は行われていないが、終了後に文書で報告している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>書類の作成方法や報告事項についての確認は密に行っている。市側からは、被保護者の生活状況の確認を目的に訪問されている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加した後、資料を提出し、管理者がまとめ、職員会議の場で全職員が理解できるよう報告研修を行っている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム内で虐待が発生した場合の対応方法を「スタッフによる」「利用者間での」「家族等外部からの人による」別にマニュアル化し、報告書を作成している。また、管理者は外部研修に参加し、高齢者虐待防止関連法について職員会議を通じて職員に説明している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて面談し、入院時や重度化した場合の対応方法等についても説明し、同意を得ている。		
10	12	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、日々の生活状況や外出時の状況を文書で家族に送っている。また、金銭についてホームでは管理せず、家族にホームへ支払いに来てもらい、その際に日頃の状況を説明したり、家族の意向を確認している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や電話連絡の際に気軽に話せるような雰囲気作りに努め、積極的に職員から話しかけ、意見を聞き出すように努めている。また、出された意見に対しては職員会議で話し合い、対応している。苦情については、苦情受け付け対応マニュアルが整備されている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職後、採用時には利用者にわかりやすく説明し、精神的な混乱や動揺を最小限に抑えられるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が参加希望する研修には積極的に参加させている。職員の経験等段階に応じた参加も併せて行い、資質の向上に努めている。研修参加後は、職員会議によるホーム内研修を行っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>様々な研修に職員を参加させ、同業者等との情報交換や交流の機会を設けているほか、近隣グループホームとお互いに見学し合い、認知症サポーター養成講座へも積極的に参加している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>信頼関係を築くことを第1に掲げ、入居前は必ずホームを見学してもらい、職員は自宅を訪問し、親しみやすい雰囲気作りを心がけ、本人・家族が安心・納得したうえでサービスが受けられるようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者と一緒に過ごす時間を多く持ち、利用者一人ひとりの思いを理解・共感し、支援するよう心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントでセンター方式を採用・活用し、普段の会話の中から本人の希望や思いを引き出せるよう働きかけ、職員会議等を通じて全職員が把握できるようにしている。また、聞き取りが困難な場合は、普段の言葉や表情から推測し、確認している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式によるアセスメントを参考に、本人の状態を確認している。家族からの意見も訪問の都度確認し、計画に反映させている。計画の見直し時には、本人の様子を確認して頂いた上で計画を提示し、説明・同意を得ている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況に応じた介護計画の遂行状況、効果等を日々の担当者が短期目標ごとに細かく評価し、変化や変更があった場合は会議を開催し、見直しを行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制による、状況に応じた訪問看護の利用や主治医への連絡と往診が行われ、利用者にとって負担となる受診や入院を回避できるよう努めている。また、入院した場合であっても早期退院が出来るよう主治医との調整を図っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の希望を聞き入れ、納得が得られたかかりつけ医となっている。また、かかりつけ医との連携を密に図り、定期受診はホーム対応で通院し、急変時等は往診による医療の確保がされている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームで「看取りの方針」を定め、かかりつけ医や訪問看護師を含めた全職員に説明し、対応の統一を図っている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを傷つけないような対応を心がけ、個人情報を大切にしよう努めている。</p>		<p>情報の同意書を用意し、契約時に説明・同意されているが、個人情報保護マニュアルの整備や個人情報保護方針の早期取り決めが望まれる。</p>
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、出来る限り本人の体調や、ペースに合わせた支援が出来るように心がけ、決まった時間に何かをしなければならない対応は行っていない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの作成は、入居者と職員が一緒になって考え、作成されている。職員と入居者が同じテーブルで会話を楽しみながら食事し、一人ひとりが出来る範囲内で準備や片付けを行っている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、週4日と定め対応している。シャワーミストを設置しており、入浴日以外でも対応が可能である。また、浴槽に入ることによる不安がある方であっても短時間で入浴した気分を感じられ、一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者本人が出来ること、やりたいことをお願いし、感謝の気持ちと労いの言葉を多く掛け、可能な限り今出来ていることを1日でも長く続けられるよう支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者本人の体調、気分を考慮し、散歩に出掛けられるよう支援している。月1回は、家族にも案内し、遠出する機会を設け、近所での買い物はいつでも行ける体制が確保されている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を策定し、掲示している。また身体拘束に関するマニュアルとチェック表を作成し活用。外部研修に参加したものを職員会議を通じて全職員へ伝達し、身体拘束をしないケアにチームとして取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関及び非常口を日中は施錠していない。職員は見守りを徹底し、一人ひとりのその日の気分や行動を把握している。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練と、内1回の夜間想定訓練を行っている。訓練の都度、町内会長や班長への周知を行っているが参加には至っていない。ただ、災害時等の誘導に関しては近所の銀行等にも協力を依頼し、指定避難地までの誘導を行って頂ける体制が出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については、個人別ファイルに記録し、1日の摂取量を把握している。水分についても把握できており、量が少なくならないよう支援している。食事栄養バランスについては、協力病院の栄養士にメニューを提示し、確認して貰っている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策マニュアルを作成すると共に、流行時には関係機関から発出される資料を下に全職員で対応方法の統一を図っている。インフルエンザについては、家族に説明し、入居者と職員全員が予防接種を受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b></p>					
<p><b>(1) 居心地のよい環境づくり</b></p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日差しや照明、室内の明るさに注意を配り、不要な物音は最小限になるよう配慮している。また、季節感をだすために、フロアの壁飾りを入居者と協力しながら作成している。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者本人の馴染みの物や、本人が好む物を安全面に配慮したうえで使い勝手が良くなるように相談しながら設置している。</p>		

 は、重点項目。